

小学校第3学年総合的な学習の時間指導計画

1 単元名 「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にしよう」 ～視覚障害者のくらしについて理解し、共に生きよう～

2 単元の目標

視覚障害について調べたり疑似体験をしたりすることを通して、視覚障害者の生活や、障害者を支える制度及び道具について理解し、視覚障害者の思いや自分たちにできることは何かを考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の指導と評価の計画

(1)単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①視覚障害者の生活について知るとともに、障害者を支える制度及び道具があることを理解している。 ②疑似体験や調査活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③視覚障害者の生活や思いに対する認識の高まりは、視覚障害者に対して、自分は何ができるかを探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①普段の生活と疑似体験で感じたことのギャップを基に課題を設定し、解決の見通しを持っている。 ②視覚障害者がくらしやすい地域とはどのような地域か、その方々のために自分たちができることは何かについて必要な情報を収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③課題解決に向けて、困っていることや自分たちにできることなどの観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④自分たちが考えた内容について、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。	①視覚障害者の生活や思いに関心を持ち、自己の生活を見詰め直し、進んで探究的な学習に取り組もうとしている。 ②疑似体験や調査活動を通して得た知識や、友達の考え、ゲストティーチャーの意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③地域との関わりの中で自分ができることを見付けようとしている。

(2)単元の指導計画（25 時間扱い 本時 6 /25 時間）

段階	時	小単元名	○主な学習活動・予想される児童の反応 ※指導上の留意点	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	1	目の不自由な人の生活について考えよう	○パラリンピック（水泳・ブラインドサッカー）の写真や動画から、目の不自由な人が競技を行えるようにするための工夫について気付く。 ・背中を棒のような物で押している。 ・ボールから音が出ている。 ・ゴーグルを付けている。 ○国語3年下「パラリンピックが目指すもの」を読み、障害者も自分たちと同じようにより良い生活を送ろうとしていることに気付き、目の不自由な人のくらしについて話し合う。 ※くらしやすさを向上させるための制度及び道具などを考えさせることで、課題への関心を高める。	①			発言、ワークシート、振り返りシート
	2		○目が不自由な人の生活を想像したり、目隠しをして教室や廊下を歩いたりする体験を通して視覚障害者の生活について考える。 ・やっぱり目が見えないと不便ことが多い。 ・目隠しして歩くと怖かった。		①		ワークシート、振り返りシート

			○目が不自由な人の生活について知りたいことや疑問に思うことを考える。 ・大変なことは何だろう？ ・外を歩くときに困ることは何？ ○知りたいことや疑問に思うことを調べるための方法について話し合う。 ※インターネットで調べるという考えが予想されるが，実感を伴う理解につながるかどうか考えさせ，多様な方法があることに気付かせる。				
情報の収集	3 ～ 5	アイマスク・白杖体験をしよう	○疑似体験を通して，その不便さを実感する。 ※社会福祉協議会へ講師派遣依頼をする。 ※目的を明らかにした上で，体験を実施する。 ○目の不自由な人がくらしやすい東大崎のために調べたいこと（仮の課題）を設定する。（個人） ・盲導犬ってどのような訓練をしているの？ ・点字について詳しく知りたい。 ・目が不自由な人はどんなところで困っているのだろう。 ・自分たちに出来ることはないかな。 ※課題を設定するときの視点を知らせることで，探究する価値のある問いを設定させるようにする。 <課題を設定するときの視点> ・「はい」「いいえ」で答えられるような問いにしない。 ・「どのような」「どうすれば」など多くの答えや考えが出てくるような言葉を使いながら設定する。	②		②	知 ② 行動観察 態②ワークシート，振り返りシート
課題の設定	6 本時	目の不自由な人の生活について考えよう	○個人で立てた仮の課題を再検討し，似た課題ごとにグループを作り，本課題を設定する。 ※クラゲチャートを使い，課題を作っていく。 ・盲導犬を連れた人に会ったときにはどうすればよいのか。 ・点字ブロックはどのような所にあるとよいのか。 ・目の不自由な人たちのために，自分たちにできることは何か。 ・生活をサポートするために自分たちができるちょっとした行動。 ・目の不自由な人がくらしやすい地域にするために工夫できることはないか。		①		ワークシート，振り返りシート
	7		○グループごとに課題解決の計画を立てる。 ※教室掲示を活用し，探究の過程を確認する。 ※インターネット上の情報だけでなく，インタビューや図書資料など多様な情報収集の手段があることを知らせる。		①		ワークシート，振り返りシート
情報の収集	8 ～ 12	目の不自由な人の生活について調べよう	○設定した課題についてグループごとに調べる。 ・盲導犬とのくらしについて調べよう。 ・学校の周りにある点字ブロックを調べてみよう。 ・目の不自由な人が不便に感じていることについてもっと調べよう。 ・目の不自由な人の生活を便利にする工夫について調べよう。 ※グループごとに情報収集をさせる。		②	①	思②ワークシート 態①行動観察，振り返りシート
整理・分析	13		○集めた情報を種類ごとに整理する。 ※整理の観点 ・公式なデータ ・目が不自由な人から聞いた意見 ・福祉の専門家から聞いた意見 ・自分や友達の考え など		③		行動観察，振り返りシート

	14 ～ 15	目の不自由な人との関わり方について考えたことを伝えよう	○情報の整理や分析の方法を考え、集めた情報から何が言えるか、目が不自由な人たちがくらしやすい東大崎にするにはどうすれば良いか、自分たち考えを検討する。 ※思考ツールを活用し、比較、分類、類推、関連付けなど、思考の可視化を図る。		③		ワークシート、振り返りシート
	16		○目が不自由な人がくらしやすい東大崎にするための考えを伝えるために、どの情報を選択すれば良いか考える。 ・困っていることを伝えることから始めよう ・盲導犬との接し方について知ってもらおう ・自分たちなりのアイディアを発信してみよう		③		行動観察、振り返りシート
まとめ・表現	17		○福祉協議会の方に向けて、自分たちの考えを発表するという相手意識や目的意識を明確にし、まとめ・表現するための計画を立てる。 ※今回は Keynote を使ってまとめることとし、プレゼンテーションにまとめるときのポイントについて全体で学ぶ機会とする。			②	行動観察、振り返りシート
	18 ～ 22		○目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするために、自分たちが伝えたいことをまとめる。 ※話し合いをしたり、文章に表現したりする中で、自分の考えをより明らかにしたり、新たな課題を見付けたりできるようにさせる。 ※説得力を持って伝えるための根拠となる資料と方法を選択するようにさせる。	③		①	知③ワークシート 態①ワークシート、振り返りシート
	23		○プレゼンテーションや発表原稿を推敲する。 ※自分たちが伝えなかったことが正しく伝わるかという視点で推敲させる。		④		成果物、振り返りシート
	24		○福祉協議会の方に向けて発信する。 ※オンラインでの発表も検討する。			③	発言、振り返りシート
振り返り	25	これからの生活や行動について考えよう	○単元の学習を振り返り、目が不自由な人との関わり方について考えたことを振り返りシートにまとめ、意見を交流する。 ※目が不自由な人に対する考え方が、学習の前と後でどう変わったか、学習を通して新たに気付いたことや分かったことは何か、学習した結果新たに見えてきた課題は何か、などの視点を示した上で考えを記入させる。 ※意見交流や話し合いを通して、障害があることは「不便ではあるが不幸ではない」ということに気付かせるようにする。	③			振り返りシート

4 本時の計画

(1) 目標

目の不自由な人のくらしについて、グループで互いの考えや思いを伝え合うことを通して、単元を通したグループ内における課題を設定する。

(2) 指導に当たって

本時は、個人で設定した仮の課題を基に、クラゲチャートを活用し、グループとしての課題を設定する時間となる。課題意識を高めたり探究するにふさわしい課題にしたりするために、「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするには」「自分（たち）にできることはないか」など視点を示したり、声掛けをしたりするようにする。グループの課題にうまく取り入れられなかった個人の課題については、選んだ課題を解決する中で解決するものもあったり、早く解決したときに別の課題について取り組んでも良いことを伝えたりすることで、児童に安心感や満足感を与えるようにする。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問◆予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
導入 3分	1 前時の振り返りと本時の学習課題の確認をする。 グループごとに課題を設定しよう。	◎前時の活動を振り返らせることで、その時の気づきや思いを想起させる。 ◎個人の仮の課題を基に、グループで本課題を設定することを伝える。	
展開 37分	2 グループで課題を練り上げる。 ○クラゲチャートを使って個人の課題を基にしながらグループとしての課題を決めましょう。 ①足部分に個人の課題を入れる。 ②課題を練り上げる視点を踏まえながら、グループとしての課題について話し合いをする。 ③決まった課題を頭部分に記入する。 ◆みんなの意見をまとめるのが難しいな。 ◆調べたあと、どうしたいかも考えた方が良さね。 4 設定した課題を確認する。 ○話し合った結果を、発表しましょう。 ＜予想される課題＞ ◆目が見えない人が安心して外を歩ける町ってどんな町か。 ◆目が見えない人を助ける人はどんな人で、どうやって助けているのか。 ◆目が見えない人とどのように関わればよいか。 ◆盲導犬を連れている人に会ったら、どう接すれば良いか。 5 次時の方向性を示し、選択する。 ○課題解決のために調べる方法は様々ありますが、みなさんはどのような方法で調べたいですか。 ◆調べる方法を考えてみよう。 ◆詳しい人に話を聞いてみたいな。 ◆何ができるか考えてみよう。	◎個人の課題は付箋に書かせ、貼らせる。 ◎課題を練り上げる視点を示すことで、深い学びになる課題を設定させる。 ＜視点＞ ・目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするには。 ・自分（たち）にできることはないか。 ◎調べて終わりとなりそうな課題になりそうなグループには、「調べて何がしたいか」「くらしやすい東大崎づくりにどうつながるのか」などと問い返すことで、課題に深みを持たせるようにする。 ◎自分たちでは出てこなかった課題に出会ったときは、付け加えても良いことを伝えることで、広い視野でテーマと向き合えるようにさせる。 ◎「インターネットで」という意見が予想されるが、調べる方法は多様にあることと、対象に直接触れることの大切さを伝えることで、実感を伴う学習になるようにさせる。 ◎次時の見通しを持たせることで、主体的な活動を継続していけるようにさせる。	【思】 仮の課題を集めて話し合い、互いの思いや考えを出し合い共有する中で、「目の不自由な人が暮らしやすい東大崎について考え、発信しよう」という単位を通した課題を設定している。 (ワークシート・振り返りシート)
終末 5分	6 本時の振り返りをする。 ○今日の活動を通して考えたことや、次の時間に向けて考えていることについて書きましょう。	◎観点を示して振り返りをさせることで、自己の学びを自覚させたり次時への意欲を持たせたりする。	

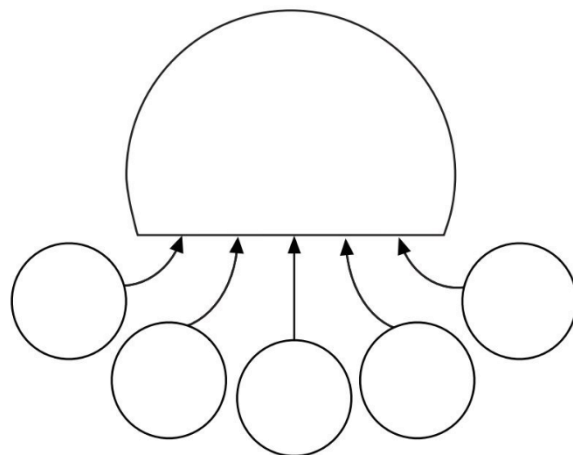
(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現	仮の課題を集めて話し合い，互いの思いや考えを出し合い共有する中で，「目の不自由な人がくらしやすい東大崎について考え，発信しよう」という単元を通した課題を設定している。

(5) 板書計画

グループごとに課題を設定しよう。

- ・目の不自由な人がくらしやすい東大崎するには
- ・自分（たち）にできることはないか



学びの足あとカード

3年 氏名()

1	月 日	だん かい 段 階
	/	か だ い せ っ て い じ ょ う ほう し ゅ う し ゅ う 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現
まとめ (学んだことや、進みぐあいなどを書こう)		
次の時間にやること (次にやること、やるとよいと思うことを書こう)		
ふり返り (今日考えたこと、次に向けて考えていることなどを書こう)		

2	月 日	だん かい 段 階
	/	か だ い せ っ て い じ ょ う ほう し ゅ う し ゅ う 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現
まとめ (学んだことや、進みぐあいなどを書こう)		
次の時間にやること (次にやること、やるとよいと思うことを書こう)		
ふり返り (今日考えたこと、次に向けて考えていることなどを書こう)		